

第3回 全国若手会

高分子学会 小柳津 聡

昨年、一昨年に引き続いて第3回全国若手会が岡山県岡山市で10月29日(水)~31日(金)の2泊3日の合宿形式で実施されました。高分子学会における産業界とアカデミアの若手研究者同士のつながりを強くしよう、という思いからスタートしたこの会に、アカデミアから13名、企業から17名の多彩なメンバーに参加いただきました。竹花さん(旭化成)のファシリテートと馬込さんのグラフィックファシリテートのもと昨年度に続き「研究者・博士のキャリアって何だろう?」のテーマでの交流を行いました。

初日は参加者全員で「ikigaiモデル」チャートを参考に、「好き・嫌い」「大切なニーズ・価値観」などの問いについて自身の考えや思いを話すワークショップを実施。自己紹介を兼ねて、自身の価値観を再確認する機会を経験しました。

二日目は先輩研究者のお二人、幹事長代理兼キャリア・ナビゲーターの大内先生(京都大学)とキャリア・ナビゲーターの上川さん(タカラベルモント)からご自身のキャリアをご紹介いただいた後、今後のキャリアについて考えるワークショップを実施しました。大内先生からは高校入学から始まる、抱腹絶倒、ざっくばらんな半生記を通じて「自分の選んだ道を正解だと思えるように努力すること」の大切さをお話いただきました。上川さんからは、女性として研究・開発のキャリアを続けることと、家庭を築き母親となるという二つの大切な生きがいを実現するための、試行錯誤や時に冷静・戦略的に下した決断の経験をお話いただきました。女性参加者のキャリアパスの参考となることはもとより、男性参加者は職場の女性やパートナーのキャリアと向き合う上で、重要な気付きをもらったと思います。お二方のお話を聞いた後に、「ikigaiモデル」中の関心事をベースに、グループに分かれ、自分のやりたいことを探求するワークショップを実施しました。参加者の考えを深める助けとして、馬込さんが、お二方のお話や、ワークショップの発表の内容を、楽しくも的を射たイラストとして、壁に貼った模造紙に次々と見える化していきました。

最終日は、事務局のメンバーも加わり、部屋全体に輪になって座り、全員が二日間の振り返りや、その中で自身の思いを話して全体を終了しました。

今回、参加者にはお菓子を持ち寄ってもらい、休憩

時に雑談しながら、みんなで分け合ってコミュニケーションをとる機会を設けました。皆さん地元の特徴あるお菓子を持ち寄ってくださり、テーブルいっぱいの全国お土産大会となりました。

3日間を通じて、改めて、広くネットワークを形成することの重要性を感じました。将来の共同研究やオープンイノベーションの活動につながるだけでなく、自分自身の視野を広げ、これからのキャリアを開拓していく上で、同じ領域でありながら違う立場で活躍している共創相手を得ることはとても価値あることだと思います。現在のキャリアを前進させていく上で、また何らかの障害でキャリアを考え直さなければいけない立場になった際に、今回の出会いや経験を糧にいただければと考えます。また貴重な経験談をお話いただいた大内先生、上川さん、プログラムの検討とファシリテーターを務めていただいた竹花さん、馬込さんには感謝申し上げます。

最後に実施後アンケートの結果を少し紹介します。何人の方と新たに接点をもつことができたか? : 5~8名4%、8~10名4%、10名以上67%、全員25%。再度参加したいか? : したい79%、しなくてよい4%。この企画を紹介したい方がいるか? : いる83%、いない17%。今回比較的参加人数が少なかったため、全員と接点をもつことができた方が多かったように感じます。アンケート結果のほか、これまでに全国若手会へご参加者いただいた方々から、さまざまな声をいただく場面が多くなってきました。これらを今後の参考にしていきたいと考えています。



第3回 全国若手会集合写真